



おやこんぼ (ノーマディアデー)

毎月15日に、「おやこんぼ」をおこなっています。「おやこんぼ」は、テレビを見ないで家族とふれ合う日。まず、親子でふれ合う時間を決め、意識することから始めてください。おやこんぼは、別名「お父さんと楽しく過ごす日」です。毎月15日はお父さんも早く帰宅してくださいね。本日、月刊絵本を配布します。

月刊絵本の紹介

毎月の「おやこんぼ(ノーマディアデー)」に合わせて配布している月刊絵本を紹介します。

いちご組・さくらんぼ組2歳未満…こどものとも 0,1,2 赤ちゃんに語りかける絵本

限られた「ことば」「生活」「体験」の中で生きている赤ちゃん。でも、10ヵ月を過ぎるころになると絵本を十分楽しめるようになります。「こどものとも 0.1.2.」は、赤ちゃんとお母さんお父さんとの豊かなふれあいの時間を作る絵本です。

さくらんぼ組2歳以上・ばなな組…えほんのいりぐち 幅広く絵本の世界に触れる入り口に

人気の「こどものとも年少版」の作品から「えほんのいりぐち」にふさわしい作品を厳選しました。幅広く絵本の世界に触れる入り口として、うってつけです。

さくらんぼ組の2歳の誕生月から配布される絵本のシリーズが変わります。

ぶどう組…こどものとも年少版 絵本に興味を持ちはじめた幼い子どもに

この時期の小さな子どもたちは、ことばの力もぐっと伸びて、興味関心の範囲もびっくりするほど広がります。「こどものとも年少版」では、子どもたちの身の回りのモノやできごとが「面白くて楽しい」と心から感じてもらえる、そんなシンプルな絵本作りを目指しています。

みかん組…こどものとも年中むき ものがたりの楽しさに出会える

子どもたちの絵本の好みもはっきりしてきて、絵本選びに少し迷う時期かもしれません。この時期の主役はなんといっても「ものがたり絵本」です。ことばと絵がぴったりとよりそい、矛盾なく子どもたちが想像の世界に入っていける。「こどものとも年中向き」では、そんな「ものがたり絵本」を軸にしたラインナップをお届けします。

めろん組…かがくのとも 子どもの好奇心の数だけ広がるかがくの世界

子どもたちの身の回りのことすべてが「かがくのとも」のテーマ。身近な植物、動物、モノ、現象を、事実の羅列ではなくストーリー性を大切にして、子どもたちに伝えます。自然、人間と生活、遊びの3つの視点から、子どもたちの発見の喜びや驚きを応援します。

写真公開

現在、公開している写真(令和5年度1~3月分)の販売は、6月17日(月)で終了となります。お求め忘れのないようお願いいたします。

実習生の紹介

5月20日(月)より二週間、常葉大学の学生さんが2名、実習で保育室(主にみかん組およびめろん組)に入ります。園としても指導していきますので、ご理解の程よろしくお願ひいたします。

母の日

12日(日)は母の日でした。あゆみ園でおこなっている乳児保育担当制は、特定の大人との関わりで愛着関係を育てる取り組みですが、それはご家庭での愛着関係が定着していることが基礎。生まれた瞬間から、常にスキンシップをおこなっているお母さんの存在があったからこそ可能な保育なのです。そんな、お母さんに感謝を込めてぶどう、みかん、めろん組の子どもたちはプレゼントとしてカーネーションを持ち帰りました。



現在、「子持ち様」という言葉がネットで出まわっています。子育てする社員が早退したり休暇を取ったりした場合、その業務は誰かが代わりに実施しなければなりません。そこで、子育てをしていない社員が大きな不満を持ち、「子持ち様」など皮肉や嫌味を言う状況となっているようです。確かに、両方の立場ともに理解できますが、やはり「公平」ではなく「平等」を優先させた考えが、このような状況を生んでいるのではないのでしょうか。子育てを終えた人はもちろん、これから子育てをする人には理解してほしいし、自分の子どもがいない方でも、あなたの老後を含めこの国を背負っていくのは、よその子どもたちなのですから、こちらも理解してほしいところです。ただ、だからといって権利ばかりを主張し、休めるのが当たり前という態度では、相手も快くは思わないでしょう。「思いやり」と「謙虚さ」があってこそ社会・人間関係は成り立っていくのですから。

子育てハッピーアドバイス

明橋大二 著

1万年堂出版より



子育ては、お母さん一人でするものではありません。お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんみんなの協力が必要です。お子さんの送迎、発熱等の早退、欠席時の対応も、すべてお母さん一人がおこなうことはありません。だって、みんな同じように子どもを愛する家族なんですから。